

いわみざわ男女共同参画マガジン

ア・ライク

ア・ライク～共に生きる～

2004年 VOL.2



コンテンツ

かつらぶんや

●桂文也のジェンダーブレイク (男女共同参画講演会)

落語家桂文也さんの男女共同参画への思いとは...

●“あ・らいく”な人

いわみざわの‘ステキさん’をご紹介します。

●岩見沢市女性模擬議会

女性のパワーでこんなすごい事やりました!

●ゆりね料理講習会

JAいわみざわ百合根振興会婦人との交流





◆◆◆男女共同参画講演会◆◆◆ 桂文也のジェンダーブレイク

講演「笑って・感じて・気付いて・変わる」
落語「目覚めのススメ」

平成15年11月18日(火)まなみーる(文化センター中ホール)において「男女共同参画講演会」が行われました。桂文也さんの、辛口で熱のこもった講演に観客誰もが引き込まれ、その後の落語では笑い声が絶えない会場となりました。さて、桂文也さんの男女共同参画への思いとは...

■ジェンダーってなに?

ジェンダーというものはどういう意味かというと、こりゃつまり生物学上の性の分類、オス・メスといった意味での生物学上の性の分類。これはいわゆるSEX(セックス)と言う分類をいたします。そうではない、それとは違う、社会的・文化的に創られた、つまり我々が生まれて育っていくそのプロセスの中で、多くの場合が家庭の中、「男としての父親のあり方」「女としての母親のあり方」、またそんな夫婦のあり方を、子供たちが知らず知らずのうちに、見聞きしすり込まれ、押し付けられ、本人が気が付かないうちに、見知りをした潜在下に、よどみのように、ヘドロのように、鍾乳洞のように硬く硬く踏み固められていってしまった

「男というのはこう生きるべきもんなんだ、
女というのはこうあるべきもんなんだ、
そうした固定的で後天的な男女の性差、

で、これは決して女性たちだけを解放しようという問題ではなく、男連自身も開放される問題、

「俺は男だから、こう生きなければ」
「男だから一家を養わなければ」
「男は外へ出て仕事をするのが当然だ、だからそれを支えるために女は家事と育児をしているんだから、それでいいんじゃないか、

そうした間違っただけの思い込み、
言うときます、これは間違っただけの思い込みです、

■男らしさ、女らしさって..

そして皆さん方は、そうした根拠として何も考えずに、家庭の中で、間違っただけの「らしさ」というものを押し付ける。そうした言動が出る元にあるのはなにか?

多くの場合が、家庭の中ですり込まれる「男らしさ」「女らしさ」。
「お前男や、男のくせに泣いたらいかん」
「男のくせに人に負けたらいかん」
「あんた女の子でしょ、女のくせに、えー、気のきかん子やね、もっと女らしくしなさい」、

じゃあお聞きしますが、そこで言うところの「男らしさ」「女らしさ」、これどういう意味ですか皆さん、

科学的に、論理的に答えられる方いらっしゃったら手を挙げて下さい、皆さん答えられない、

じゃあどうすんの、子供に聞かれたら、
「お父さん男らしさってどういう意味?女らしくってどういう意味?」
聞かれたらどうすんの、あんたら答えられへん、答えられへんことをなんで口にするのそれ、

同じく「男のくせに」、「女のくせに」、「男だから」、「女だから」、
何の根拠もない、間違っただけの思い込みを、何故自分自身に押し付け、自分の

首を絞め、誰かに押し付け、誰かの足を引っ張る、
なぜ、間違っただけの思い込み、自分でその言葉の意味を検証しようとしんのか、
じゃあここで一緒に、皆さんと一緒に検証しましょ、

■人間はすべて個人差

どういう意味で、どういうイメージでその言葉を使ってたのか、
ま、例えば「男らしい」というイメージとしてはね、「力が強い」とか、「勇気がある」、「弱音を吐かない」、「努力する」、「我慢する」、
たぶんそんなイメージで、「男らしい」という言葉を使ってたでしょう、
じゃ、今言ったイメージ、これはすべての男が持たなければならない能力か、すべての女連が持つことの出来ない能力か、そやない、
じゃあ、「女らしい」というのはどんなイメージか、
ま、例えば、「優しい」とかね、「細やかな心遣い」、「思いやりがある」、「でしゃばらない」、「裏で支える」、
ま多分こんなイメージで、「女らしい」という言葉を使ってるでしょう、
じゃあ、今言ったイメージこれは、すべての女性が持たなければならない能力なのか、持つことの出来る能力なのか、
そして、すべての男たちが、持つことの出来ない能力なのか、
そうではない、優しさも、強さも、勇気も、思いやりも、
これすべて、人間が持ついくつかの能力・特性・個性のうちのほんのひとつ、つまり人間の能力というのはこれ、すべて個人差です、
男女差はありえない、

この世の中に「男らしく」「女らしく」という言葉すら存在しない、
根拠はないんですから、皆さん答えられないんですから、
答えられないことに根拠があるわけがない、
この世の中に唯一ある言葉は「人間らしい」「自分らしい」という言葉、
人間はすべて個人です、個人差です、能力もすべて個人差です、

首を絞め、誰かに押し付け、誰かの足を引っ張る、
なぜ、間違っただけの思い込み、自分でその言葉の意味を検証しようとしんのか、
じゃあここで一緒に、皆さんと一緒に検証しましょ、



■気付く事が第一歩

ところが多くの男たちはね、違うんです腹んなかで、
「なに言うとなんねんこいつは訳分からんこと言いやがって、決まってるやないか男は昔から男らしく、女は女らしくや、そうやって生きていくのが一番ええねや、なあ、それいままさら説明せんでも、そんなん当たり前のこっちゃ、分かってる、常識やがな、なあ、せやからワシや今日来るのいややてん、これなあ、お母ちゃんが、無理やり連れてきたけども、アー、家でバレーボール見てたら良かったあ」てなこと多分、腹ん中で思ってるでしょう、

つまり、自分が否定されたような気になってしまう、
「お前は男だ人に負けたらいかん」、「弱音を吐くな」、「男は泣いたらいかん」、「笑ったらいかん」、「もっと努力しなさい」、「男らしく生きなさい」、

という根拠のない「らしさ」を押し付けられた男たちは、それが間違っただけと言われたとたんに、自分が否定されたような気になりよる、

そして、「泣いたらいかん」、「笑ろたらいかん」、感情の表現すら許されなかった男連は、自分の身を守るために、必ず誰かを傷つけざるを得ないということに、本人は気付いてない、

根拠無いんです、意味も無いんです、
何故そんな意味のないことを、家庭の中で再生産してしまうのか、
言われた子供はたまったもんじゃあない、

子供にとって親は絶対です、
親が言うところの「泣くな」、「笑うな」、「男らしく生きなさい」、
どういう意味か分からんけども、泣かへんかったらほめてもらえる、
あ、泣かないことが男らしさなのかなあ、子供は思うんです、
もちろん、何か転んで痛かったら泣きます、

「泣いたらいかん」「男は泣いたらいかん」「男らしくせないかん」、
あ、痛かっても泣かないことが男なんだ、

「ヘラヘラ笑ろたらいかん」、
あ、笑わないことが男なんだ、思い込むじゃないですか男は当然、
そうして、家庭の中で作ってるんです、
家庭の中で親たちが押し付けてるんです、
そんなことが貴方たちの日常生活の中にあるんですよ、
気が付きましょやこれ、

■仕事の世界は男性優位?

そんな間違いを家庭の中で皆さんが、繰り返してらっしゃる、
この世の中に無い言葉を使ってるでしょう、
なぜそうしたことに気付かないのか、
つまり多くの場合男連には、こんな意識があります、

「んなこと言うてもなあ、今はどんな仕事さしても男のほうが優れてる、なあ、女に負けるわけが無い、現実はそのやないかい」
てなことをおっしゃいます、

確かに今、いくつかの仕事や作業において、男連のほうが優れている、
これはあるでしょう、認めましょ、
しかし、そこには明確な理由がございます、
その理由は何か、つまりこれは、経験値の問題です、
つまり女連が永らく、そういった仕事や作業を、経験することを否定されてきた、

「女は仕事なんかせえんでええ」、「家にこもって子供産んでたらええねや」、「めし炊いたらええねや」、「掃除したらええねや」、「風呂沸かしたらええねや」
と言われた女連が、チャンスが持てなかった、
そして仕事をして、「ああ、女連はヘラヘラ笑ろて、受付に座ってたらええねや、ソロバンはじいたらええねや、茶一湯んでたらええねや、男と一緒にしようやなんて無理やから、やめたらええねや」、



■気付いて、そして

人間は、過去と他人を変えることは出来ません、
自分と未来しか変えること出来ない、
つまり自分を変えることによって、未来を変えることが出来るんです、
他人がどうやとかあの人やどうか、他人の事はどうでもよらしい、
自分がどう変わるか、気が付きを持った人間は、変わらなければならない義務と責任があります、
自分がどう気付き、どう行動するかと、
私のテーマにあります、「笑って・感じて・気付いて・変わる」、
笑われた方は、その笑いの底にある「ジェンダーバイアス」、そのジェンダーが生み出すおかしさ、その不条理というのを感じたからお笑いになったと思います、
感じられたんです、
で、笑って感じた後は、気付いて、そして変わらなければ、
次は貴方たちが、行動をする番です、
自分がどう変わるか、
そして、「おかしさ」、声を出し続けること、
諦めるのではなく、ねえ、目を伏せるのではなく、自分の思いを伝えるという当たり前の作業を通じて、皆さん方一人一人が、気が付きを持って行動されることを、望んで、願っております、

男女共同参画講演会「桂文也のジェンダーブレイク」
講演の部・落語の部をすべて掲載した収録集を、ご希望の方に差し上げます。ここには載せきれなかった楽しい話、ためになる話がいっぱいです。
ぜひご一報ください、

〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
岩見沢市役所 企画調整課 広域・行政対策室
TEL 0126-23-4111 FAX 0126-23-7118
E-MAIL kikaku@i-hamanasu.jp

ステキさんあつまれ～!

いろんな個性があるから
いわみざわがおもしろい

あ・らいくな人

貴方の知ってる「あ・らいくな人」を紹介して下さい。

岩見沢市企画財政部企画調整課 広域・行政対策室
TEL: 0126-23-4111 内線422
e-mail: kikaku@i-hamanasu.jp

イドリス・マジェット氏



始めはひどく緊張していた様子でしたが話が進むにつれどんどん口調も滑らかになり、人懐こい笑顔を見せてくれるようになった彼は、シャイな好青年という印象でした。他国でたった一人で頑張っている彼を、私たちは思わず応援したくなりました。

■ 岩見沢の印象はいかがですか。

岩見沢は豊かな自然とのんびりとした雰囲気私の故郷によく似ています。住宅事情も前に住んでいた大阪とは違い、部屋が広くて家賃も安く快適ですね。(笑)

■ 日本に来る事になったきっかけは?

高校1年の時に習っていた日本語の先生が始めて逢った日本人でした。日本語だけではなく日本の文化なども教えてもらい興味を持ち始め、いつか来たいと思っていました。

■ 日本に来てどんな事を感じましたか。

たくさんの方のカルチャーショックがありました。例えば会議の持ち方、日本では会議の中でディスカッションするのはなく、あらかじめ根拠を示しておいてOKをするだけの場が多いと思います。ホンネとタナメエ、社交辞令というのがありますね。アメリカでは、OKするかしないかの判断を話し合うチャンスな場です。でも日本は安全な国で、人が優しく食べ物も美味しいです。文化的でエキゾチックな国で大好きです。

■ 今、日本で「ジェンダーフリー」という事についてよく書かれていますが、どう感じますか。日本ではアメリカと同じように憲法で男女平等と謳われていますが、女性の地位は低いように思います。例えば市長や管理職などはほとんど男性ばかりで、お茶は女性ばかりが入っています。アメリカでは女性に頼んでも断られる事もあるし、訴えられる事もあります。

■ 将来結婚するとしたら、どんな家庭にしたいですか。

一番大切なことは、まずお互いが幸せになることですね。妻が専業主婦をしたければそれもいいし、また妻が専業主婦なら私がパートタイムで通訳の仕事をしてもいいと思います。2人で話し合い解決できれば、男が働き妻が専業主婦、妻がフルタイムで男がパートタイムなど、仕事を分担して2人がそれで幸福ならいいと思います。家事は分担します。私は皿を洗うのがとても上手です。料理も好きです。でも子どもが生まれたら必ずどちらかが子どもと時間を過ごすべきだと思います。それは男でも女でも構いませんけど。

■ ご両親について少し聞かせていただけますか。私が3歳の時に父が亡くなり、母だけの手で育てられました。母は比較文学の博士号をとるなど、とても努力家でした。私はそういう母を尊敬して、幼い頃から出来る限り協力してきました。だから女の人が専業主婦になるというイメージはありません。女性にもいろいろなチャンスがあっていいと思います。昔がいるんな選択肢を持つようになると、男性にとってもプラスになる事が多いと思いますから。

■ 貴方自身について少し聞かせていただけますか。私が3歳の時に父が亡くなり、母だけの手で育てられました。母は比較文学の博士号をとるなど、とても努力家でした。私はそういう母を尊敬して、幼い頃から出来る限り協力してきました。だから女の人が専業主婦になるというイメージはありません。女性にもいろいろなチャンスがあっていいと思います。昔がいるんな選択肢を持つようになると、男性にとってもプラスになる事が多いと思いますから。

アメリカニュージャージー州プリンストン市出身、29歳。外務省のジェットプログラムにより、国際交流員として岩見沢市役所に赴任、1年目。



齋藤 和熙・千代子ご夫妻

お話を伺う前に、築百年というそのお宅を見せていただきました。横で仕切られた奥の仏間には、これも年代物という奥様に磨き上げられた仏壇や、手組工の欄間、縁側などが私たちを迎え入れ、初めて訪れた家なのに、なぜか懐かしさが感じられました。

■ 農家というと、女性が大変な労働力だとよく書われますが、妻:農家は一家全員で外仕事をして、家の中のご飯支度なんかは昔から女の仕事でしょう。結婚した当時の事を思い出しますと、昼食の後ちょっと横になる時間もありませんでした。若い時には何とかやってこれましたが、歳母が亡くなり、だんだん体力がなくなってきて横にならなくなると、義父がよくさっさと片付けて遊んでくれたりして本当に助かりました。今でもごみ捨てをしてくれたり、洗濯物を干してくれたり、冷蔵庫の中を見て足りない物を買って来てくれたり、主人以上に協力してくれます。「農家は女がバカくない、家事だけ余計だ、いつ誰がどうなるかわからないからお互い何でも出来るようにしておかなければ」と義父は常々言っています。

夫:考えてみると本当にそうだね。妻が昨年と一昨年に入院しまして、その時は買い物から炊事、洗濯まで父がしてくれて助かりました。父が朝ご飯を炊くと、息子はおかずを買ってきて弁当を作って持って行ってました。

■ 最近女性もトラクターなどを運転するようになりませんが、高藤さんは?

妻:大型特殊もリフトも持っています。結婚して10年位の時主人が手術して力仕事を出来なくなった事がある、これからは女であろうと何でも出来なくちゃと認めた。男だから、女だからという事ではなく、農家というのは家を支えていくときにお互いの出来ない分を補い合わなければ成り立ちませんからね。

夫:私が結婚した頃、やっぱトラクターがぼちぼち入りだしてきてたんですが、当時の機械とちがって今は乗用車感覚ですからね。それでも絶対機械にさわらない女の人は多いですよ。昔は女や年寄りは機械にさわらなくてもいい、というような意識があったと思います。若い者がいるのに年寄りがさわったら笑われるなんて、都合の悪いときは年寄りになるんですよ。(笑)

■ 夫婦で旅行したりした事はありますか。

夫:ずいぶんしてませんね。旭川の町会長、連絡協議会長、民生委員やそれに関連するいろいろな役職がありましたから、そういう意味では妻よりも子どもに可愛そうな事をしたなと今思っています。一緒に遊んであげる時間が人から見たら10年もずれていて...まあこれも言い訳だと思いますが、時間は作るものですからね。

■ 息子さんは今高校生ですが、将来農家を継がれるんですか。

夫:それはわかりませんが、農家というのは結婚すると大抵農と同居でしょ。妻としてみれば自分がそれなりに苦労もあってしょうから、子どもとは同居しないで距離をおいた方がいいと考えているみたいですが、男というのは出来れば一緒にいたいと思わぬんです。それで息子が中学1年の時、同居してくれるかどうか聞いてみたら、それは妻次第だと言いましたね。ドキッとしましたね。こんなちょっといい日での行動や言葉のやり取りを見て、子どもなりに考えているんだと勝手に思っています。妻の行動は責任重大ですね。



窪田 博美氏

保育園のドアを開けたとたん聞こえる元気な子供たちの声、中に入ると40名から50名程だろうか、ヨチヨチ歩きから走り回る子ども達までが溢れ返っていました。落ち着いてお話を聞けるのか少し不安になりましたが、別室に誘われて一安心しました。

■ 何名くらいの子どものさんが子育て支援センターを利用されているんですか。

保育園の方は60名定員で75名位いますが、支援センターは登録制ではありません。育児相談や子育てに役立つ情報、楽しいサークルも色々ありますので、どんどん利用して欲しいです。市の広報に掲載したりポスターも作っているんですけど、こういう施設を知らないお母さんがたくさんいます。お友達をたくさん作って、家の中に引きこもらないで欲しいですね。

■ 子どもさんを預かっていて、困った経験などありますか。

子どもってすぐ熱出したりするでしょう。そんな時、何かあったりすると大変ですから親に連絡をして迎えに来て下さいということになるんです。だけどお勤めのお母さんは、断め先になかなか言い出しにくい。小さいお子さんがいるというだけで仕事が見つからないのが現状ですからね、自分も子どもが小さいとき預けて働いたのでもよくわかります。

■ そういう時はどうするんですか?

うちの場合はすぐ近くに病院があるので、場合によっては連れて行ったりします。そんな風に近くに病院があったり、園内に看護師さんが常時いてくれる施設が増えるとお母さんたちも安心だと思います。

■ 今の若いお母さんたちに何か言いたい事は?

私の若い頃に子どもを預けて来ていたお母さんたちは、しつけが行き届いてたなあと思います。その子どもたちが今母親となって子どもを連れて来ますが、やっぱりちゃんとしています。子どもをほめたり、悪いことはきちんと叱ったり、叱りすぎかなと思ったとき自分でプレーキをかけることも知っていますが、今は子どもを叱れない親もいます。しつけなどで迷ったりしたときは1人で考えないで、相談して欲しいと思います。そういう事って大事だと思いますね。

■ 最近、男性の保育士さんも増えてきましたね。

以前この保育園にもいましたよ。力を使う遊びもやっぱり得意で、やさしい先生でしたから子どもたちもとてもなついていました。もっと増えてくれるといいなとは思いますが、男性が生計を立てていけるほど給料がよくありません。妻の収入が良ければいいんですけどね。でも今の時代、男性の主夫というののもいいかもしれませんね。



近藤明日子氏



岩見沢市出身、40歳。市内5条西3丁目「遠藤法律事務所」の弁護士として就業中。夫と2人の子ども4人家族。

約業の時間にもたちが訪れたその事務所では、彼女は仕事の電話中でした。案内された応接室では、その大きなデスクからは想像もつかなかった、穏やかでキュートな少女のように微笑む女性が迎え入れてくれました。

■ 毎日お忙しいと思いますが、家事や子育てについて夫の協力体制は?

協力体制?家事?家事はね、手抜きです。(笑)うちの夫の素晴らしいところは、手抜きをしても文句をいわないこと。すごく感謝しています。お客様には少し迷惑をかけているかもしれませんが、午後5時には家に帰るようにしています。子どもがまだ小さい今、仕事の量をコントロールしているんです。土、日は休みなんです。平日たまっている仕事を片付けにきていますので、その間は必ず彼が子どもを見てくれています。土、日だけは子どもとしっかり向き合ってくれてますね。もちろん両者の協力も大きくて、それなしではここまでやって来れなかったと思っています。

■ 女性の弁護士さんは少ないと思うのですが、どうしてこの職業を選んだのですか。

私が子どもの頃に「水俣病」の裁判がとても大きく報道されていて、あのように戦う姿に憧れたのがひとつ。それともうひとつは、結婚しても職業を持ち続ける女性になりたいかった。勤続としては大きくこの2つですね。

■ 独身時代、お二人の結婚願望は違いましたか。たとえば専業主婦になって欲しいとか。

私が仕事をやめる女性ではないということを知った上でお付き合いをしていましたので、結婚が決まったときも仕事をやめる、やめないという事はしませんでした。ただ子どもが生まれたときは少し仕事を休みました。彼の方は、私がすぐに子どもを保育所に預けて仕事を続けたいと思っていたらしく、私が「ちょっと休むわ」と言うと、夫は逆にびっくりして「あ、休むんですか...」って。(笑)

■ 最近よく「ジェンダー(固定的役割分担意識)」という言葉を目にしますが...

少しずつですが良くなっていると思いますよ。自分のような働き方ができるのもちょっと昔なら考えられなかったけど、今はある程度割り切って働くという方法も選択できるんだなって、もっとも、夫の理解は必要ですが。

■ 久しぶりに戻ってきた岩見沢のまちの印象は?

私は高校を卒業するまで岩見沢に任んでいましたが、子どもの頃は正直言ってもっと活気がありましたね。駅前が特に寂しい気がします。私たちの若い頃は、駅前で皆さんが集まる所でしたから、これから新しい駅舎ができて、繁栄してくれたいいなと思います。



谷 昌治氏



阪人の日記事業「二十歳の記念日」の実行委員の1人だった谷さんは、当日即興何人か「君が代」を取っ替えて出ました。ごく普通のどこにでもいるような若者の、どこにそんな情熱が隠されているのか驚かされました。

■ 大学のボランティアサークルに入っていると聞きましたが。

教育大のボランティアサークルで、少年自然の家とかで子供向けのキャンプの手伝いなんかをしています。岩見沢に青年の家があった時はそこでやってたんですが、なくなっちゃったんで...ちょっと寂しいですね。

■ 阪人の日に「君が代」を歌ってくれたのは、ボランティアサークルの皆さんですか。

全員がボランティアサークルじゃありません。自分は大学の寮に入っているんですが、寮の仲間にも声をかけたところ、みんなやってくれると言ってくれました。だけど会場は結構ざわついてましたね。僕の場合は札幌だったんですが、友達もみんな音痴はバカやってたんですけど、そういうヤツラに限って家外ちゃん聞いてたりしましたよ。

■ 同世代の女の子に対して何か感じることは?

こんなこと言ったら怒られるかも知れないけど、全部が全部じゃないけど最近の若い女の子ってあまり好きになれない。男と同じ権利ばかり主張するんだけど、肝心な時には女をアピールするし、先生たちも女の子には甘い。本当に男性と同じ待遇を要求するんだとら、ちゃんとしてることをしてから要求して欲しいですね。それにちょっと怒られるとすぐ泣いて見せたりして、もう許せないっす!それで男女同じだって言われても、なんか困るっすけど...

■ 今4年生ですが、就職するんですか。

大学院に進学することになりました。僕は教員になりたいんですが、今年の試験は二次試験で落ちてしまいました。僕、岩見沢好きなんで、出来れば岩見沢で就職したいんです。

■ 岩見沢のどんなところが好きなの?

人が好きなんです。都会の人はなんか冷たい感じがします。ボランティアでいろいろなところに行きますが、やっぱり岩見沢は人の暖かさを感じますね。それはずっと失わないで欲しいです。





岩見沢市女性模擬議 会が開催されました

〈平成15年10月23日 岩見沢市議会議場〉



会が開催されました

〈平成15年10月23日 岩見沢市議会議場〉

平成15年10月23日、岩見沢市初の「女性模擬議会」が開催され、一般公募や市民団体から推薦の模擬議員28名が、学習会や会派ごとの討議を何度も重ね当日に臨みました。

議員の方たちは下記のとおりです。

〈岩見沢市女性模擬議会 議員名簿〉

議長 瀧谷 扶美子
副議長 蔵田 愛子

子どもの健全育成クラブ 代表 高岡 いづみ
教育クラブ 代表 平尾 塔子
まちづくりクラブ 代表 朝山 光
環境・生活クラブ 代表 武田 涼子
健康福祉クラブ 代表 東海林 公子

氏名	所属クラブ
瀧谷 扶美子	子どもの健全育成クラブ
高岡 いづみ	*
松田 展美	*
永沼 典子	*
市川 まゆみ	*
森口 悦子	*
平尾 塔子	教育クラブ
鳴海 悠子	*
後藤 由美	*
九津見 千佳子	*
佐々木 由美子	*
朝山 光	まちづくりクラブ
山本 アサ子	*
杉澤 圭子	*
大西 圭子	*
関 二三子	*
伊藤 とみ子	*
蔵田 愛子	環境・生活クラブ
武田 涼子	*
竹中 寿子	*
角谷 民子	*
浜田 千賀子	*
東海林 公子	健康福祉クラブ
西下 穂子	*
三上 敏子	*
志田 照子	*
谷 暎子	*
村上 須美子	*

■ 議会当日までの道のり

「男女共同参画いわみざわ」(会長 佛田チヨ)の20周年を記念して行われたこの事業は、女性の自立をテーマとし、そのほとんどの作業を自分達だけで進めて行こうという、無謀とも見える計画から始まりました。

実行委員会のメンバーが決まり、まずは実行委員の学習会。議会の仕組みから進め方など初めての事ばかりの連続で、時には議会事務局の職員を講師に招き、むずかしい例規集とにらめっこのつらい毎日でした。

その後議員の一般募集が始まると、心配された応募状況も順調で、30歳代から80歳代まで28名の議員も揃い、いよいよ本格的な準備作業が始まりました。

先ずは実行委員による、模擬議員の皆さんに覚えての議会の仕組みや議会の進め方の学習会をし、その後28名は5つの会派に分かれました。1会派から2つの質問が出される事になりましたが、質問内容を決めるには皆さん大変な苦勞をされたようです。

しかしこの模擬議会を、最後に笑って終りたいという全員の熱意から、時には自宅で、又あるときは喫茶店で、会派ごとの熱い討議が繰り返され、本物の議員顔負けのすばらしい質問が出来上がったのです。

本番前日には議場においてリハーサルが行われ、議員席の自分の名札を確認しながら緊張の面持ちでした。この時誰もが明日の成功を心から願っていました。



傍聴席は満席で、開放した議員出入口の扉にも 傍聴者があふれた模擬議会でした。

■ そしていよいよ本番当日

その日は朝からあいにくの雨で、傍聴者の出足が鈍る事が心配されました。しかし午前11時から会派の代表を招集しての「議会運営委員会」が始まる頃には雨も上がり、日も差してきました。

12時30分、模擬議員の議場への入場が開始されると、緊張は最高潮に達しました。しかし皆自信に満ち溢れ、しっかりと足取りで自分の席へと向かいました。ここまではリハーサルどおり、大丈夫、きっと成功する…全員がそう信じて歩いていた事でしょう。

気が付くと傍聴席は満席で、入場しきれなかった来場者から不満の声が漏れ、急ぎ議会事務局の判断で、前代未聞の議員出入口を開放し、そこにも傍聴者が溢れているという開会になりました。

12時45分、20周年記念事業のセレモニーが開会され、渡辺市長からは、「女性のパワーを今後の市政に反映させて欲しい」と励ましのお言葉を、公務で出張中の村上市議会議長に代わり片倉副議長からは、「女性の視点から見たまちづくりを」というご挨拶をいただきました。

「ただいまから、本日をもって召集されました平成15年岩見沢市女性模擬議会を開会いたします。」

瀧谷議長の力強い第一声から始まった女性模擬議会は、「会議録署名議員の指名」「会期の決定」の後、一般質問に入りました。

トップバッターを切ったのは竹中寿子議員。「防災と安全対策」「農業の振興について」の2点を市長、教育長に質問するものでした。



一般質問に真剣に答弁する渡辺市長

「通告の順に従いまして一般質問を行います。」と始まった彼女の声は、極度の緊張にもかかわらず堂々たるもので、

「竹中議員の一般質問にお答えいたします。」そう答える市長の声の方が、いつもよりも緊張しているように思えました。

その後9名の模擬議員の一般質問にも、市長、教育長の答弁は親切でわかりやすく、とても前向きなものでした。

- 松田議員～「次世代育成支援対策推進事業」
- 鳴海議員～「児童生徒の健全な育成と体験のサポート」
- 山本議員～「緑豊かなまちづくりの推進」

「歴史的文化遺産の保存と活用」

- 三上議員～「健康推進」「介護保険」
- 角谷議員～「ごみ処理問題」「消費者被害の防止」
- 永沼議員～「豊かな人間性を育てる環境づくり」
- 佐々木議員～「子どもの読書と図書館のあり方」
- 杉澤議員～「女性の健康支援施設の整備促進」

「岩見沢市の情報化」

- 西下議員～「男女共同参画の実現をめざして」

どれも女性ならではの視点から捉えた質問ばかりで、どの模擬議員も堂々とした態度、落ち着いた話し方で、すばらしいものでした。

一般質問を終えたあと、「いわみざわ男女共同参画プランの推進について」の決議案の提案説明が、副議長の蔵田議員により読み上げられ、「市民と行政とのパートナーシップによるプランの推進・実現」について賛同を求め提案されると、全員の賛成起立により可決されました。

こうして模擬議会は無事終了し、最後に全員で議場での記念写真を撮りましたが、大きな事を成し遂げた満足感からか、誰もが皆暗れやかな笑顔でいっぱいでした。

今回このように貴重な経験ができたのも、渡辺市長をはじめ多くの皆様のご理解、ご協力のおかげと思っています。

自分達1人ひとりの力は小さいけれど、たくさんの力を合わせればこんなに大きな事もできるということを知られた一大イベントでした。 <著:岩見沢市女性模擬議会実行委員会>

